

やまゆりニュース

Vol.32

令和2年10月1日発行

川崎市麻生区市民活動支援施設 麻生市民交流館やまゆり



塩ビパネルを配し、飛沫防止対策を強化した受付

Withコロナ時代の「やまゆり」 感染予防と日常活動の両立を目指して！

多くの人は当初コロナが、こんなにも長く続くとは思っていません。しかしながら、現在の状況を考えると、ワクチンと治療薬が世界に行き渡るには、少なくとも1～2年、かなりの時間が必要と言われるようになりました。

「麻生市民交流館やまゆり」でも4月10日～5月31日まで感染予防の観点から休館としました。

5月25日の緊急事態宣言解除に伴い、Withコロナ時代に向け、さまざまな制約を設けつつ再始動しました。

まず6月は平日の午前・午後のみ開館。7月は平日午前・午後・夜間の開館。8月以降は開館日を土・日・祝日を含め、会議室・サロンが、利用可能な人数を減らし、換気や消毒を徹底。コロナ以前と同じ条件では行きませんが、利用できるようになりまし。

しかし、コロナの先が見えない状態が続いているなかでは、Withコロナの観点から、いかに感染対策と通常活動を調和させていくかを考えて行く必要があります。

事務所内での運営スタッフの作業や、各団体の会議室・サロンの利用方法においても、手探りのなか、3密の回避、消毒の励行、飛沫防止など、コロナ感染予防の基本的な対策を徹底して行い、できるだけ皆様の要望に答えられるよう努力しております。イベントに関しても「やまゆり」独自の制約・ルールを設け、主催者のご理解のもと、徐々にではありますが開催に至っております。

今後「やまゆり」の利用を新たに希望される方は、Withコロナ時代を認識していただき、



演者と客席の間に塩ビパネルを設置し飛沫を防ぐ

ホームページ上に記載されている利用上の注意事項、ならびに利用条件などを必ず確認されたうえでお申込頂きますようお願い申し上げます。

理事 北川 泰

やまゆり利用に関する ガイドライン(抜粋)

- マスクの着用。
- スリッパ持参。
- 利用前後は、備え付けの消毒液で利用設備(テーブル、いす、スイッチなど)の消毒、および換気に協力を。
- 飲食(必要な水分補給を除く)を伴う集会、大声を出したり、呼吸が激しくなるような活動は控える。
- A会議室・B会議室、サロンの定員を半分に(A会議室:9名、B会議室:15名、A+B会議室:27名、夜間サロン:30名まで)
※椅子追加は不可。
- 平日日中のサロン利用は1時間まで。

そのほか

詳細はホームページでご確認ください。

<https://yamayuri.ne.jp/>

「あさお区民記者」募集中！

◆区民による区民のための情報発信

麻生区には現在600以上の市民活動団体があります。これらの団体やサークル取材し、紹介をしているのが「あさお区民記者」です。

◆見学・体験大歓迎！！

編集会議は原則毎月第2木曜、15時から16時30分。麻生市民交流館やまゆり1階サロンで行っています。

なかしま ひさゆき

問合せ・連絡先: 代表 中島 久幸 ☎ 080-5087-2665

Do what we can do

感謝状と多田貴栄麻生区長を囲んで記念撮影
7月21日の贈呈式に参加したプロジェクトメンバー



手作りのマスクで地域に貢献

手作りマスクプロジェクト

千代ヶ丘にある「高石地域包括支援センター（以下センター）」を拠点に、手作りマスクを通じた地域貢献活動が行われている。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、店頭からマスクが消えた4月。同時期に発令された緊急事態宣言により、地域で開催されていた体操教室、ヨガ、集会も休止となり、シアターの居場所がなくなった。

センターの倉石知恵美さんは「お年寄りが外出しなくなり、人と会ったり話したりしなくなると活力がなくなる。このままでは大変なことになる」と危機感を覚えた。自宅に居ながら地域や人とつながれる活動ができないかと考えていたところ、地域活動をしている女性からセンターに手作りの布マスクが届けられた。「これだ!」。マスクを必要としている人と、マスクを作れる人をつなぐ架け橋になればと、プロジェクトを立ち上げた。

倉石さんは、まず認知症サポートー養成講座で配布するマスクを作成している「ロバ部」

に声を掛けた。裁縫が得意な部員も、なにか役にたてるならと、友人・知人にも声を掛け、活動の輪は口コミで拡大。チラシを作り、マスク作りに必要な材料の提供を呼びかけると、家庭に眠るハギレや生地、ゴムなどがセンターに続々と贈られてきた。

作られたマスクは、高齢者施設や障がい者施設、こども食堂、わくわくプラザなどのほか、賛同してくれる人々の手によって区内の店舗やお母さん達にも配られた。

プロジェクトに携わったメンバーはのべ60人。年齢は20代から80代と幅広く、提供されたマスクは3000枚を超えた。

7月21日、麻生区からこのプロジェクトの活動に対し、感謝状が贈られた。倉石さんは、2回の報告会を経て、次のステップへと進もうとしている。地域で助け合える活動、居場所作り、認知症の人々の支援など、コロナ禍で生まれた地域支援の輪を発展させ、絆をより強いものにしようと挑み続けている。

●問い合わせ

高石地域包括支援センター

麻生区千代ヶ丘1丁目2-19

☎044(959)6020

取材・文 区民記者 佐々木直子

「コロナ禍で会えなくても『つながる』」

チームマロン & ふれあいサロンにいくた

新型コロナウイルスの感染拡大で大勢がひと所に集まるとの活動ができないなか、高齢者が地域交流を目的として活動するボランティア団体にさまざまな工夫が生まれている。

「マロンカフェ」（栗木台地区）では「チームマロン」メンバーの大工原さんが、中学校時代の交換日記を思い出し、5月に「君とおしゃべり」と題したノートの回覧をはじめた。地域の人々が日々の出来事をノートに書き込むことで「つながり」が見えてきた。これからは地域交流の輪が広がればよいと大工原さんは希望を抱いている。

一方「ふれあいサロンにいくた」は、「会えなくても皆とつながっていたい」という参加者の声を受けて、スタッフからの事務連絡と一緒に、切手を貼った未使用

ふれあいサロンにいくた代表鈴木さん



絵はがきの例



の絵はがきを封筒に入れて郵送。鈴木さんが提案し、5月からはじめた。

絵はがきを受け取った人たちは、一筆添えて投函するか、記念に手元に残している。「絵はがきを、ありがとう」との返事をもらって鈴木さんは「つながり」を実感したという。

なお、両団体は一緒に活動してくれる仲間を募集している。

●問い合わせ

栗木台地域包括支援センター

麻生区栗木台13-15

☎044(988)5160

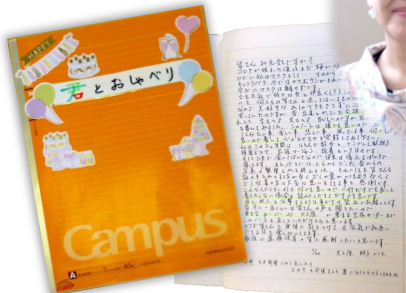
チームマロン メンバー・大工原

ふれあいサロンにいくた

代表・鈴木

取材・文 区民記者 新田武明

チームマロンメンバー
大工原さん



交換日記「会えなくて寂しい、早く会いたい、花がきれいに咲いた」などと自由に書き込んだ。

#コロナに負けていられない!!

コロナ禍でもできることがある。「やりたい」を実現するための奮闘レポート



若々しい語りの口で熱演する
志らびーさん



客席の間隔を空け、高座との距離もとって3密回避

「3密」防いで、楽しく笑おう

志らびー落語会

コロナ禍で音楽や演劇のイベントを開くのが難しくなっている麻生市民交流館やまゆり。そんななかで、3密回避の工夫をこらし、先頭を切って催しの再開にこぎつけたのが「志らびー落語会」だ。

立川志らく師のもとで前座修業をしている27歳の立川志らびーさんが、実家から近い「やまゆり」で月に一度の「しんゆりワンコイン落語会」を開くようになったのはこの1月。1月、2月はそれぞれ40人ほどの観客を集める盛況だった。コロナウイルス感染拡大で3月から6月までは中断を余儀なくされたが、「地元のお客さんに芸を届けたい」の思いは変わらず、再開に向けて入念に準備。

「やまゆり」がコロナ対策として設けたイベント開催ガイドラインを守り、3密防止策を徹底して、7月から会を復活させた。

まず、収益は度外視して、会場の定員を下回る「15名限定、完全予約制」の条件を設定。客席の椅子は間隔を空けて並べ、高座は客席から3メートル離れた。もちろん来場者のマスク着用、検温、会場の換気も。開演前には、観客の移動や会話を控えるようにも呼びかけている。

「コロナ禍のなかでどれだけでもか、試してみたい。いままでも通りにくいできないにしろ、やれるだけのことを続けていきたいと思っています」と志らびーさん。8月の会でも明るい芸で会場に笑いの渦を巻き起こした。今後も毎月、「いまだできること」を精いっぱい続けていく構えだ。

これにほかのイベントも続き、9月はじめには歌手と客席の間に塩ビパネルを設置した歌謡ショーが行われた。

「やまゆりテック」も支援の態勢を整えている。コロナ禍に挫けず、やまゆりサロン文化を盛り立てようとする奮闘である。

取材・文 区民記者 佐藤次郎

夫婦の思い ステイホームの一助になれば



自作のチョコレートアートを壁一面に飾ったアットホームな店内。甘いものを仲良く食べれば自然と笑顔に

柿生商店街の川崎信用金庫の並びにあるケーキとパンの店「ミツバチ」。自粛生活を強いられている人々に、少しでも笑顔と元氣を取り戻して貰いたいとの思いから、5月にひとり親家庭向けに「アップルパイ」と「シフォンケーキ」を無償で提供した。また、ほかの団体から届く「手作りマスク」を現在も提供している。

今回の活動のきっかけは、地域活動に参加して人脈ができたことにある。以前から麻生の未来を考える「希望のシナリオプロジェクト」や、住民が交流するアートと食の祭典「しんゆりマルシェ」などに参加してきたが、ここで知り合った人々が、コロナで苦しむ住民を支援していることを知り、自分たちができることとして思い立った。

SNSで1週間程度、ひとり親家庭から希望を募り、それぞれ20個程度を提供した。また、情報

たくさんの手作りの看板に
優しい思いがあふれる



店主の圭吾さんと妻の奈々子さん

をシェアしてくれた人にも、「食パン」を20個程度提供した。9月は「川崎市の敬老祝事業」に関わり、多忙な日々を送ったが、余裕ができたなら、また何かやりたいと考えているとのこと。

「川崎市のふるさと納税の返礼品」のなかに、「ミツバチ」が製造する「禅師丸柿ワインケーキ」、今人気の「カヌレ」、「紅茶シフォンケーキ」などの詰め合わせセットがある。川崎市民は対象外なので、市外の知人に紹介されたい。

DATA

店舗名: ケーキ&パン ミツバチ

店長: 松倉 圭吾 (3代目)

連絡先: ☎044-988-7463

創業: 1963年

休業日: 火曜、水曜

営業時間: 9時30分~15時

日曜~12時

所在地: 麻生区上麻生5-43-11

URL:

<http://mitsubachiblog.com/>

取材・文 区民記者 中島久幸

写真提供: ミツバチ



家族で学ぼう プログラミング



**子ども達の未来に繋がる
「プログラミング思考」
を育む！**

「家族で学ぼうプログラミング」を「麻生市民交流館やまゆり」や「寺子屋」で開催。保護者も一緒にプログラミングを学ぶ機会を作っています。

2019年6月からはじめ、昨年度は11回の開催で合計70名の小学生が家族と共に参加してプログラミングを楽しく学びました。

2020年度から小学校で導入されたプログラミング教育で活用する「マサチューセッツ工科大学開発のビジュアルプログラミング言語『Scratch』」をベースに、麻生区から世界へ羽ばたく子どもが育つことを大きな夢として実施しています。



2019年8月にやまゆりで開催された講座の様子

子ども達が正しく「ICT・インターネット」を安全に活用できるように基本を学ぶことは重要であり、初歩から学ぶことができます。

講座内容

- ①お絵描きでパソコンに慣れる、マウスも上手に使えます。
- ②教育用小型コンピュータボード **micro:bit**（マイクロビット）で音楽、作曲家の雰囲気を感じ、センサーやLEDを活用したプログラムの工夫を凝らします。

③Scratch+AIで画像認識、AI（人工知能）とはどのようなものかを知って貰います。

プログラミング講座で使用するのは、富士通製の新製品 **miniPC**（富士通から貸与）です。

今年度はコロナ禍のなか、教材の消毒など準備を十分に行い、夏休みが終わった後の8月23日に第1回を実施しました。

第2回は11月28日（土）カフェ・グランデあさお2020に参加して開催の予定です。

Information

- ・開催日時：2020年11月28日（土）
12時30分～14時
- ・開催場所：新百合トウエシティワンホール

※定員・申込方法など詳細は
「麻生市民交流館やまゆり」
ホームページに10月中旬に掲載予定です
お問合せはホームページの
「問合せページ」からお願いします



2020年8月にも実施。3密を避けスペースに余裕を設けて行った

今後とも3密を避けながら、参加者の安全・安心を第1に考え開催します。

今後の開催情報は、やまゆりのホームページに掲載しますので、ご家族お揃いで参加してください。

理事 上田和雄

★麻生市民交流館やまゆり

【開館日】

月曜～金曜 9時30分～17時
※平日の夜間 ～20時15分、
土・日曜、祝日も予約をすれば利用可。
休館：年末年始、施設点検日

【アクセス】

小田急線「新百合ヶ丘」駅
南口から徒歩約4分

【ホームページ】

<https://yamayuri.ne.jp/>

